第3回会議におけるKJ法による各グループのまとめ

≪Aグループ≫ 「人」を中心とした運営

- 1. 課題への取り組みと各要素のつながり
 - ・こどもの考える力を育てるため、大人は見守る 【A-1-1】
 - ・コーディネーターが調整し、各要素をつなげる 【A-1-2】
- 2. 参加の機会を増やす 【A-2-1】
 - ・こどもや大人が気軽に参加できる環境づくり 【A-2-2】
 - ・こどもと大人が出会い、親子で考える機会を提供 【A-3】
- 3. 多様な企画の展開 【A-4】
 - ・こども向け、大人向け、どちらにも向けた企画の展開
- 4. 情報の共有と発信 【A-4】
 - ・課題の共有と、既存の取り組みの情報発信が必要
 - ・SNS、ポスター、会議などを活用し、最新情報を発信

≪Bグループ≫ 大人の参画と地域連携

- 1. こどもの主体的な学びの促進 【B-1】
 - ・こどもが主体的に考え、行動することで、成長につなげる
 - ・発信の工夫や対象を考えながら、自らの活動を広げていく
- 2. 親子・地域住民の関わりの強化 【B-2】
 - ・親子で参加できる機会を増やし、こどもに寄り添った活動を展開
 - ・親だけでなく、地域の大人もこどもと関わる仕組みを作る
- 3. 地域や人との関係づくり 【B-3】
 - ・地域団体(まちづくり協議会・学校運営協議会など)と協力し、問題解決の場を作る
 - ・地域を見守るコーディネーターの育成
- 4. 大人の参加拡大と地域連携の推進 【B-4】
 - ・「おもしろそう」「やってみたい」と思える場作り
 - ・参加しやすい環境を整え、新しい参加者を増やす
- 5. 情報の取得と発信の循環 【B-5】
 - ・こどもにも大人にも情報が届くよう、発信の工夫
 - ・こどもや高齢者でも情報取得しやすい
 - ・情報を得て、身近なことから始める循環

補完

両グループのまとめからの委員意見

A-1-1, B-1
・こどもがやりたいこと・興味のあることを尊重し、アウトプットしていく機会が大事ではないか。

A-1-2, B-3
・コーディネーターについては一生懸命いろんなところで探してこられる中で、潜在的にいろいろなことできる人もおられると思う。アンテナをはり発掘して背中を押し、その人をどんどんプレーヤーにしていくのもやり方ではないか。

A-2-1
・授業でこどもたちが意見を保護者が聞く機会があった。大人が聞き、まちの課題に大人の方にも循環できるといいなと思った。

A-2-2
・こどもに関わる活動をしていると、こどもも学ぶことができるし、大人もこどもから、また上の世代の方から学ぶことがある。そういう意味でも人同士が集まることは大切。

A-4, B-5
・こどもや高齢者に情報をどのように知らせるようになるか。

B-1
・課題はこうだとかそんなことではなく、何かテーマを1個与えて、それをみんなが考えて課題を解決していき、コミュニケーション力等の力をつけていくことが大切。

B-2
・学校でやりきれなかった部分を地域で掘り下げてやってもらえると、こどもが興味を持ってやりたいなと思うことを親も一緒に行こうとなる。

B-3
・地域における地域課題の議論を進めるうえで、世代間の連携が不足し、課題の共有が進まないため、高齢者福祉部会などがこどもと共に活動し、単なる参加者ではなく主体的に関わる機会を作ることが大切。

B-3
・人の繋がりが薄まっている中、どのようにまちづくり協議会や学校運営協議会において、次の世代に繋げていくか。

B-5
・様々なところに関わっていく上で、課題を知ることが大切。

今後の地域の地域協働合校による展開における視点

ア
≪こどもの主体的な学びの促進≫
・こどもが自ら考え、行動し、発信できる場づくり

・こどもがやりたいことを尊重し、大人は見守る A-1-1
B-1

イ
≪多様な世代が協力する仕組みづくり≫
・親子だけでなく、地域の大人とこどもが身近に関われる環境づくり

・世代間が学び・交流できる場づくり A-2-2, A-3
B-2

ウ
≪地域との連携とコーディネーターの活用≫
・多様な人材を発掘し、個性を活かす育成

・人・資源・活動をつなぐコーディネーター支援 A-1-2
B-3

エ
≪大人が参加しやすい環境づくり≫
・大人が「やってみたい」と思える機会づくり

・地域の大人が気軽に参加できる環境づくり A-2-1
B-4

オ
≪情報の共有と発信の強化≫
・SNS等における双方向の発信と交流、課題の共有の促進

・こどもや高齢者が必要な情報にアクセスしやすい仕組みづくり A-4
B-5